

展示「下田歌子関係資料」

期 昭和57・10・4 ~ 10・23
於 図書館 3F 閲覧室(渋谷)

。「下田歌子関係資料」

下田歌子関係資料とは、学祖 下田歌子先生の明治・大正・昭和にわたる女子教育関係および、和歌・国文学著作・日記・書簡・文書等のほか、学園史関係の資料のことである。今回は、その中から和歌を中心として展示いたしました。

(1) 短冊

数多い短冊の中から、幼年期・青年期・壮老年期の三期に分けて、各々の時期から二点ずつ選びました。

○幼年期

・冬路 白雪は野辺一づらにふりつみて 道行人もまどふ夕ぐれ (10才)
・春悦東来 吹こゆる風もなごその関のくに かすみ立なりはるや来ぬらん (13才)

② 青年期

・山家暮秋 山がつに根をたふれたる葛のはのうらかれはてゝ残る秋かな
・二條城 沖つなみ越る代しらぬ石がきやたいらのみやのみたて成らん

③ 壮・老年期

・燭影秘木 水底の影ぞみだるゝともし火のうつろふきしを舟やひくらん
・千鳥と名づけたる筆を
まさご路をつたふ千鳥の無かりせは
むがしのあともなにとめまし

(2) 扇子 一本

この扇子は、昭和四年卒業時に記念品として戴いたものである。谷野浜子氏所蔵
なよ竹のカあつめて なでしこの
ませ垣ひろく 結ぶがうれしさ
歌子

(3) 詠草

○詠草

一冊(美濃判13枚) 慶応三年(1867) 13才の折の作。
表紙に、「ひのこの卯のとし 秋季詠草 千浪點(加藤千浪點者)
ひら尾せき子 十三才」と記されてある。

② 「三題詠草」

一冊(緑色美濃判7枚採点表1枚) 標題なし
正風・敦子・景敏・久子・下田歌子・道子等の名あり。詞草末尾に
作者名。「明治十五年前後」

(4) 色紙 (三点)

○鏡 よしあしの影をうつして偽らぬ がみを人のこころともかな 歌子
② 日雲りなき 朝日をうけてあまくもにはゆうちかはす 千代の友鶴 (玉河美代子氏寄贈) 歌子

③ 湊川懐古 みなと川水はかれても 天地に 溢るゝものは まことなりけり 歌子

※次回展示は「古今和歌集」を予定しております。